

沖縄は、今—山城博治さん講演集会のご案内

2009年9月の「歴史的な」政権交代から一年半。新政権への期待が幻滅に、そして怒りに変わると共に、「これ以上の基地負担はごめんだ!」「普天間基地は県外へ!」という叫びが、沖縄の人々の総意として揺るぎないものとなった18ヶ月でした。「沖縄のことは沖縄が決める」—沖縄の自己決定権を求めるこの声に、ヤマトに暮らす私たちがどう応えるのかが、問われ続けています。

朝鮮半島情勢や中国の軍拡に対抗する米軍の動きが活発化して嘉手納や普天間での戦闘機の訓練も激しさを増し、周辺住民の暮らしを日常的に脅かしています。また、日本政府・防衛省は、「島嶼防衛」と称して先島諸島への陸上自衛隊配備を打ち出す一方、沖縄の声に背を向けて「日米同盟」を何よりも優先し、辺野古ではコソコソとキャンプ・シュワブ内の兵舎整備工事を進め、そして東村高江では、昨年未から沖縄防衛局が大量の作業員を動員し、米軍ヘリパッド建設に向けた作業を強行しています。

「沖縄の人はごまかしとゆすりの名人だ」—米国防省メア前日本部長（3月9日に更迭）のこの占領者然とした暴言に接したときに、まず頭に浮かんだのは、あの守屋前事務次官が著書『「普天間」交渉秘録』の中で沖縄の人に対して投げつけた「二枚舌」という発言でした。本音に裏打ちされたこれらの「失言」は、沖縄に軍事植民地状況を押しつけ続ける日米両政府の戦後一貫した対沖縄政策の本質を象徴するものです。

沖縄講座では、沖縄平和運動センター事務局長の山城博治事務局長をお招きし、講演集会を開催します。山城さんは昨年未から東村高江で米軍ヘリパッド建設に向けた作業強行に抗議する住民の座込みテントに張り付き、沖縄防衛局を追及してきました。今回は、この高江の闘いの報告を中心に、「沖縄の今」を語っていただきます。

沖縄の闘いに心を寄せる全ての方々に 4.26 横浜集会への参加を呼びかけます。

日時 2011年4月26日（火）18時半から

会場 かながわ県民サポートセンター4階402号

内容 「東村高江の記録2010—2011」上映

お話「沖縄は、今—東村高江で起こっていること」

講師 山城 博治さん・・・1952年沖縄・うるま市生まれ。自治労沖縄県職労副委員長を経て2004年から沖縄平和運動センター事務局長として、全国の反基地闘争の現場を駆け回る。キャンプ座間や横須賀など神奈川でもおなじみ。集会の演壇における熱弁は、聴衆の心を深く揺さぶる。

資料代 500円

主催 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座（略称・沖縄講座）

賛同 多くの賛同団体・個人を募ります。個人1000円/□ 団体3000円/□

連絡 Email: kazu-fk@mta.biglobe.ne.jp